

# 産業別四半期見通し調査結果 (2019年10～12月期見通し)

## ■ 県内産業天気図

### ◇ 2019年7～9月期の現況

- 全17業種中、「薄日（順調）」が1業種、「曇り（普通）」が13業種、「小雨（低調）」が3業種となった。

### ◇ 2019年10～12月期の見通し

- 見通しは、「曇り（普通）」11業種、「小雨（低調）」が6業種となった。方向感では、「横ばい」が7業種、「やや下降」が10業種となっている。

天気図記号	2019年 4～6月期現況	2019年 7～9月期現況	2019年 10～12月期見通し
 晴れ（好調）	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日（順調）	3 業種	1 業種	0 業種
 曇り（普通）	13 業種	13 業種	11 業種
 小雨（低調）	1 業種	3 業種	6 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

## ■ 10～12月期見通しのポイント

- 製造業では、「産業用機械」が「曇り（普通）」から「小雨（低調）」になる見通し。
- 非製造業では、「自動車販売」が「薄日（順調）」から「曇り（普通）」となる見通しであるほか、「大型小売」「ホテル・旅館」が「曇り（普通）」から「小雨（低調）」になる見通し。





































































照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所  
調査部（担当：桑井、久保田）  
TEL：026-224-0501


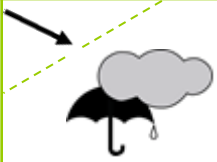
# <産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


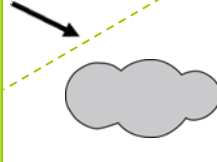
■調査期間：2019年9月中旬～10月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の124社

業 種	前期 (4～6月期)	今期 (7～9月期)	来期 (10～12月期)	
工 作 機 械				
半 導 体 製 造 装 置				
産 業 用 機 器				
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス				
自 動 車 部 品				
光 学 ・ 計 器				
プ ラ ス チ ッ ク 製 品				
飲 料 製 造				
食 料 品 製 造				
機 械 器 具 卸				
大 型 小 売				
自 動 車 販 売				
公 共 工 事				
民 間 工 事				
旅 客				
貨 物				
ホ テ ル ・ 旅 館				


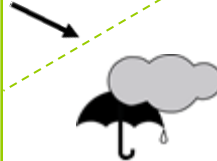
## 工作機械 : 機械受注は低調な推移が見込まれる

<p>現 況</p>	<p>国内の機械需要は、設備投資に慎重な企業が増加し、政府の投資促進策も下支えには至らず総じて低調だった。前期まで堅調であった主力の自動車向けで減少したほか、半導体・電子部品関連の受注も減少した。海外は、北米向けは米国の完成車需要の減速を受け自動車産業を中心に低調であった。中国向けは、米中貿易摩擦や中国の景気減速を背景に低迷しており、特に自動車関連やスマートフォン関連で減少した。一方、タイやインドネシアといった東南アジア向けは、自動車向けが下支えし堅調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、設備投資マインドの低下により主力の自動車関連を始め半導体・電子部品関連などの機械受注は低調な推移が見込まれる。海外は、北米向けは、米中貿易摩擦の長期化により米国で設備投資に慎重な企業が増え、受注は自動車産業を中心に低調に推移する見通し。アジア向けは、中国は景気減速からの回復が見込みにくく製造業全体で需要は低迷する見通し。一方、東南アジア向けは自動車関連を中心に底堅く推移する見込み。</p>
	


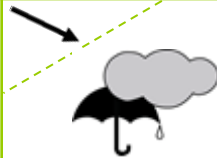
## 半導体製造装置 : 海外を中心に需要は弱含む

<p>現 況</p>	<p>国内は、車載用のパワー半導体の需要が底堅く推移し、関連する製造装置の受注も堅調だった。海外は、スマートフォン向け半導体の在庫調整により機械装置の新規受注が伸び悩んだほか、米中貿易摩擦の影響による投資の先送りから中国関連の需要が鈍い動きとなった。一方、自動車やIoT製品に使用されるセンサー向け半導体やウエハーなど素材関連の製造装置では、需要が旺盛だった昨年からの受注残があり、高稼働が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、ハイブリッド車やEV向けのパワー半導体の製造ラインにおける設備投資により、装置需要は堅調な見込み。海外は、スマートフォン向け半導体の在庫調整に伴う機械更新の見直しや米中貿易摩擦の影響による半導体関連投資の先送りから、関連する装置需要は低調に推移するとみられる。業界全体では、昨年からの受注残への対応で高い稼働率を維持している企業においても、足元における新規受注は徐々に減少しており、今後の製造装置の生産は弱含むとみられる。</p>
	


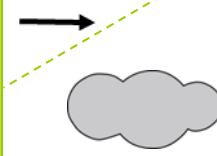
## 産業用機器 : 設備投資抑制により機械需要は低調に推移

<p>現 況</p>	<p>FA機器は、国内は自動化機器へのニーズが底堅いものの、設備投資への慎重姿勢から総じて機械需要は低調だった。海外は、米中貿易摩擦の影響を受けて中国における生産活動が鈍化し、半導体関連を中心に設備投資の抑制がみられた。車載関連機器は、国内は底堅く推移したが、海外は中国や欧州の景気減速の影響から完成車市場が低迷し、需要は伸び悩んだ。冷却装置や空調機器などは、工場設備の省エネニーズが根強く受注は安定した。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器更新が需要を下支えた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>FA機器は、国内は自動化関連の装置需要が期待されるが、全体では生産ラインの機械投資が抑制され、需要は低調に推移する見通し。海外は、中国関連需要の持ち直しには時間を要するとみられ、半導体関連装置向けの受注などが引き続き弱い動きとなる見込み。車載関連機器は、海外は景気減速の影響によりアジアや欧米向けの受注減少が懸念される。水冷装置や空調機器などは、設備の更新需要が底堅い見通し。住設機器は設備のリフォームや機器更新に伴う需要を見込む。</p>
	


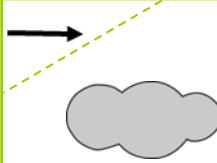
## 電子部品・デバイス：産業用の電子制御部品の受注は低迷する見込み

<p>現況</p>	<p>スマートフォン向けは、秋の新機種の本格的な立ち上がりから生産水準は高まったが、5G対応を見据え、買い替え需要が減少したため前年の水準を下回った。半導体関連の製造装置やFA装置などに組み込まれる産業用の電子制御部品は、中国の景気減速による在庫調整が続いており受注は低調だった。車載向けは、国内では安全運転支援や、駆動装置、ブレーキなどさまざまな領域で需要は高まっているものの、中国での需要減少が要因となり、堅調だった前期の受注水準からはやや低下した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スマートフォン向けは、例年高い生産水準が続く時期であるが、5G対応を見据え買い替え需要が減少するとみられ部品受注は前年水準を下回る見通し。半導体関連の製造装置やFA装置に組み込まれる電子制御部品は、在庫調整が続くとみられ、受注は低迷する見込み。一方、車載向けは、中国向けの需要は前期並みが見込まれ、国内は安全運転支援システム搭載の新型車の需要が底堅く推移するとみられることから、全体では横ばいの見通し。</p>
	


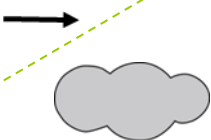
## 自動車部品：国内は底堅いが、中国や東南アジアの新車需要の低下を懸念

<p>現況</p>	<p>国内は、多目的スポーツ車（SUV）や軽自動車の新型車向けを中心に、部品受注は堅調だった。海外は、北米向けは、米国の新車販売が前年をわずかに下回ったが、日系メーカーのSUVや新型車向けの部品受注は底堅かった。中国向けは、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速により新車需要は低迷しているが、日系メーカーへの影響は限定的だった。東南アジア向けは、資源安で景気が減速しているインドネシアやローン審査が厳格化されたタイなどで新車需要が落ち込み、減産に踏み切る動きもあり、部品受注は減少した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、消費税増税による落ち込みは軽微とみられ、新型車向けを中心に受注は底堅く推移する見通し。海外は、北米向けは、米国の新車需要は弱まっているが、日系メーカーのSUVを中心に受注は底堅く推移する見通し。中国向けは、新車購買意欲の低迷が続き、日系メーカーの受注減少も懸念される。東南アジア向けは、インドネシアやタイなどで新車需要の冷え込みが続くとみられ、部品受注も弱含む見通し。</p>
	


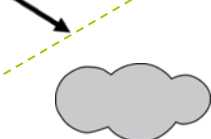
## 光学・計器：プロジェクターやガスメーターは順調、半導体関連は低調の見込み

<p>現況</p>	<p>光学機器は、事業者用プロジェクターのレンズユニットの受注は順調だった。自動車向けLEDランプは、新たな部品の受注は伸びなかったが、既存部品の受注が増加して堅調となった。一方、スマートフォンの部品の受注は前年に比べ減少したほか、半導体製造装置向けは、海外で設備投資の先送りが続き低調だった。計器類は、ガスメーターが国内の取り替え需要と、アジアを中心とした海外での新規導入需要から順調だった。一方、半導体製造装置向けは海外需要の弱さから低調だったほか、建設機械向けは受注が減少した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器は、事業者用プロジェクターのレンズユニットは、海外需要が安定しており受注は順調が見込まれる。自動車向けLEDランプの部品は、既存部品の受注を中心に堅調の見通し。一方、スマートフォン向けの部品はやや減少の見通し。半導体製造装置向けの受注は低調が続くとみられる。また計器類は、ガスメーターは、国内・海外ともに安定した需要があり順調の見通し。一方、半導体製造装置向けは、受注の回復は期待できず低調が続くほか、建設機械向けも弱含みで推移すると予想される。</p>
	


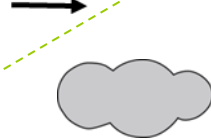
## プラスチック製品：容器類の受注は低調だが、全体は堅調を維持する見通し

<p>現況</p>	<p>0A・情報機器部品は、事業用複合機の部品受注は安定的に推移した。スマートフォン向けは、米国完成品メーカーにおける手頃な価格帯の最新機種で部品生産が前年を上回ったほか、中国の完成品メーカー向けも生産が回復して堅調に推移した。自動車関連の部品は、安全性能を高めた新型車を中心に部品生産が増えるなど堅調だった。容器類は、化粧品容器が供給過多の状況になり在庫調整から受注が減少したほか、芳香剤など化粧品以外の容器もやや減少し全体では低調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>0A・情報機器の部品は、複合機を中心に需要は底堅く前期並みの受注が継続する見込み。スマートフォン向けは、米国完成品メーカーの部品生産が前期水準を維持するほか、中国メーカーの部品も堅調が続くとみられる。自動車関連の部品は、国内の消費税増税による完成車販売への影響は軽微とみられ、環境に優しいEVや安全性能を高めた車種を中心に、底堅く推移するとみられる。容器類の受注は、芳香剤などの容器は前期並みの見通しながら、化粧品容器は在庫調整が続くとみられ、全体では低調が続く見込み。</p>
	

## 飲料製造：消費税増税後の購買意欲の落ち込みが懸念される


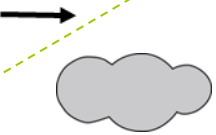
<p>現況</p>	<p>清涼飲料のうち、ミネラルウォーターや茶系飲料は梅雨明けの遅れや8月後半の気温低下などの影響で需要が前年を下回り、果汁・野菜飲料も天候不順によるトマトや桃などの原料不足から生産量が伸び悩んだ。清酒は、販売比率の高い普通酒の需要が落ち込み中、生酒・冷酒などの夏季限定商品や高級酒が下支えした。ワインは、日本ワインを中心に需要は安定した。清酒・ワインなどのアルコール飲料は消費税増税の対象となるが、増税前の目立った駆け込み需要はみられず、総じて例年並みの販売量となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料は、茶系飲料やコーヒー飲料などを中心に気温の低下に伴い例年並みの販売量を見込む。果汁・野菜飲料は、夏場の天候不順に加え、台風19号の被害による原料不足の懸念や一部工場の被災もあり例年の生産量を下回る見通し。清酒は、宴席シーズンで最必要期となり、高級酒や発泡清酒などで需要の取り込みを図る。ワインも、日本ワインの人気銘柄や新酒の需要増が見込まれる。飲料業界では、軽減税率の効果や大幅な駆け込み需要が無かったことから消費税増税の反動減は小さいが、購買意欲の落ち込みによる販売低下が懸念される。</p>
	

## 食料品製造：最必要期を迎え、簡便・健康志向の商品を中心に堅調な見通し


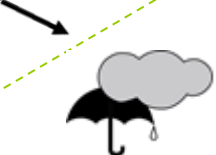
<p>現況</p>	<p>味噌は、即席みそ汁など簡便な商品のほか健康面を訴求した減塩商品などの生産が堅調だった。製粉は、梅雨が長引き気温が低かったことから冷やし麺の需要が弱く、生産は伸び悩んだ。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、調理が簡単で時短が図れるスープ類や惣菜などの需要が高く概ね前年並みの生産水準を維持したが、人手不足が生産の制約となる企業もみられた。加工肉は贈答用で生産が増加したほか、大豆関連製品は、健康志向の高い消費者の購入が増加し生産は順調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、簡便商品や減塩商品などを中心に生産は堅調を維持する見込み。製粉は、年末年始の必要期を迎え生産水準が高まる見通し。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、簡便や健康志向の商品を中心に堅調な推移を見込む。加工肉は年末の贈答用の需要増加が見込まれる一方、豚コレラの感染に収束の目途が立たない生産国があり原料価格上昇の懸念もある。大豆関連製品は、健康志向と調理の手軽さ等から販売増加が見込まれ、生産も順調に推移する見通し。</p>
	




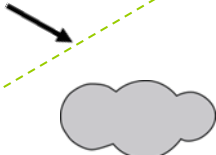
## 機械器具卸 : 設備投資に慎重な姿勢が続き、機械需要は弱含む

<p>現況</p>	<p>米中貿易摩擦の影響や中国の景気減速などから、企業の設備投資が抑制されたため機械需要は低調だった。空調機器の受注は、教育施設への空調設備設置工事により好調に推移した。</p>
	<p>機械に取り付ける切削用工具類や金属板等の消耗品受注は、製造業の生産活動の低下から減少した。配線機器や分電盤などの電設資材は、民間工事では取扱量の多い大型案件が減少したものの、公共工事では教育施設への空調設備設置工事が下支えし、全体では取扱量は増加し堅調に推移した。</p>
<p>見通し</p>	<p>機械需要は、景気の先行き不透明感から設備投資に慎重な姿勢が続き弱含む見込み。教育施設への空調設備導入は引き続き予定されており、空調機器の受注は順調な見通し。消耗品の需要は、企業の生産活動が前期並みと予想され横ばいで推移する見込み。電設資材は、民間工事では企業の設備投資に対する慎重な姿勢から減少見込みであり、公共工事では教育施設への空調設備設置工事が期待されるものの、全体では取扱量は減少見通し。</p>
	


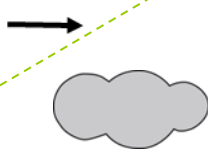
## 大型小売 : 消費税増税に伴い、節約志向の高まりが懸念される

<p>現況</p>	<p>大型小売店は、前年より1カ月遅い梅雨明けとなり夏物の出足は遅れたが、高額品や雑貨などで消費税増税前の駆け込み需要がみられた。百貨店は、夏物衣料が振るわなかったものの、宝飾品や化粧品などで駆け込み需要による売り上げ増加がみられた。スーパーは、軽減税率の適用から駆け込み需要は酒類や日用品などに限られたが、生鮮食品を中心とした食料品の動きは底堅く、総じて堅調だった。しかし、消費者の低価格志向により、価格競争は業態を越えた厳しいものとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>大型小売店は、消費税増税に伴う節約志向の高まりが懸念される。高額品などは駆け込み需要による反動減が見込まれるものの、食料品は軽減税率の適用もあり影響は一部にとどまる見通し。百貨店は、催事の強化などで集客を図るとみられるが、駆け込み需要が大きかった宝飾品や化粧品は落ち込むとみられるほか、衣料品も引き続き苦戦が予想される。スーパーは、生鮮食品を中心に堅調な推移が見込まれる。一方、キャッシュレス決済のポイント還元も本格化し、顧客獲得のための価格競争は一層激しさを増す見通し。</p>
	


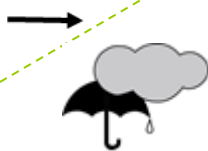
## 自動車販売 : 消費税増税の影響は限定的ながら、販売水準は前期を下回る見込み

<p>現況</p>	<p>消費税増税前の駆け込み需要が一部でみられ、新車販売台数は前年を上回った。特に、10月以降自動車税の減税措置がない軽自動車は、新型車を中心に販売台数を伸ばし好調だった。普通車は、多目的スポーツ車(SUV)や低燃費の車種が販売台数を牽引した。中古車販売は、軽自動車を中心に底堅く推移した。輸入車は、新型車や高価格帯の車種の販売が一部で伸びたが、販売台数は前年をわずかに下回った。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車税の減税措置などにより、消費税増税の影響は限定的となる見通し。販売水準は、順調であった前期を下回るが、前年並みを見込む。普通車は、低燃費の車種が引き続き販売を牽引するとみられる。軽自動車は、モデルチェンジした車種や人気の車種を中心に販売が底堅く推移する見通し。中古車は、引き続き堅調な販売が続く見込み。輸入車は、新型車やSUVが販売を牽引するとみられるが、販売台数はやや弱含む見通し。</p>
	


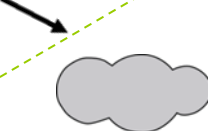
## 公共工事 : 道路・河川等の土木工事を中心に例年並みの工事量を維持する

<p>現 況</p>	<p>国では、三遠南信自動車道関連工事のほか道路や河川等の土木工事、独立行政法人等では、リニア関連工事が発注され、安定的な工事量を維持した。県では、防災・減災対策工事の発注が続き、市町村では、教育関連施設の整備工事や地域交流センター等の大型工事のほか既存施設の改修工事が発注され、全体の工事量は前年を上回った。資材価格は高値圏で推移した。施工管理を行う技術者を中心に人手不足が続いており、労働環境の改善や人材の育成・定着に向けた取り組みがみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国では、道路や河川等の土木工事、独立行政法人等では、高速道路の整備工事等を中心に底堅く推移する見通し。県では、防災・減災対策工事や河川改修工事等、市町村では、施設の維持改修工事が見込まれるが、大型の建築案件は少なく全体としては前期に対して弱含む見通し。資材価格は引き続き高止まりするとみられる。技術者の高齢化により人手不足感はますます強まる中、台風被害への応急復旧工事もあり、適切な人材の確保・配置への対応が懸念される。</p>
	


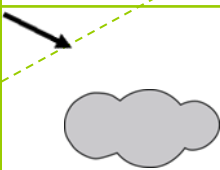
## 民間工事 : 製造業の工場新設が低調に推移

<p>現 況</p>	<p>民間企業の建設投資は、非製造業で事務所や店舗、宿泊施設等の新設がみられたものの、景気の先行き不透明感から製造業の投資意欲が低下し、全体の工事量は低調に推移した。新設住宅は、持家の需要が底堅く推移した。また、リフォームにおいて増税前の駆け込み需要がみられた。分譲は県内都市部において大型マンションの新規着工が続いたことから需要は堅調であった。資材価格は高値圏で推移した。現場代理人をはじめとした技術者の人手不足は続いており、人件費の増加がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の建設投資は、非製造業で宿泊施設や福祉施設等の新設が予定されているものの、米中貿易摩擦の影響から製造業の工場新設が低調となり、全体の工事量は低調な見通し。新設住宅は、持家やリフォームは好調だった前期の反動から需要が弱含むとみられる。分譲は、県内都市部において引き続きマンションの根強い需要が見込まれることから、例年並みの受注を見込む。資材価格や人件費等の増加から収益面では厳しさが続くともみられる。また、台風19号の被害による住宅や工場など建物の改修工事が発生する見込み。</p>
	


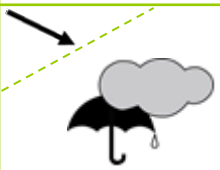
## 旅客 : 観光利用は台風の影響により減少する見通し

<p>現 況</p>	<p>高速バスの利用者数は、お盆期間中の日並びが良かったことから観光利用、帰省利用が増加し前年をやや上回った。山岳観光地行きバスの利用者数は、グリーンシーズンの集客に力を注いだものの7月に降雨が続いたことが影響して前年をやや下回った。貸切バスの利用者数は、ドライバーを需要の高い高速バスに振り向けたことで受注が制約されたこと等により前年を下回った。タクシー利用者数は、通院やビジネス等による日中利用、夜間利用ともに横ばいであった。鉄道の定期外乗客数はほぼ前年並みであった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>高速バスの利用者数は、ビジネスや帰省利用は前年並みが見込まれるが、台風の影響で観光面での利用減少が懸念される。山岳観光地行きバス利用者数は、外国人観光客によるスキー関連の利用は前年並みを見込むが、前半は台風19号による風評被害などの影響も予想され、やや減少の見通し。貸切バスも、台風19号によるキャンセル増加などから前年を下回る見通し。タクシーは前年並み、鉄道は台風の影響が定期外乗客数に及ぶ懸念がある。</p>
	

## 貨物 : 製造業関連の運送量がやや減少する見通し

<p>現 況</p> 	<p>工作機械等の運送量は、米中貿易摩擦の影響により国内製造業の設備投資の先送りの動きなどから減少した。電子部品・デバイスの運送量もやや減少した。一方、食品や飲料の運送量は、ほぼ前年並みを維持した。人手不足に対応したドライバーの待遇改善にともない人件費が増加した。また、庸車代は高止まりが続いた。一方、軽油価格は前期に比べて若干下落したため各社の燃料費は減少した。ドライバー不足のため募集活動を継続しているが改善するには至っていない。</p>
<p>見 通 し</p> 	<p>工作機械等の運送量は、中国向け輸出の落ち込みや生産増強等を目的とした設備投資の先送りが見込まれることから減少する見通し。電子部品・デバイスの運送量は、在庫調整による受注減によりやや減少する見込み。一方、食品や飲料の運送量はほぼ前年並みの見通し。運送業全般において運送量がやや減少しても、依然としてドライバー不足の状態が継続する見込み。ドライバーの待遇改善の動きは続き、人件費は増加する見通し。</p>

## ホテル・旅館 : 秋の行楽シーズンを迎えるも、台風の影響の長期化を懸念

<p>現 況</p> 	<p>ビジネス客の宿泊利用は、都市部を中心に堅調に推移した。観光客の宿泊利用は、県内大型イベントが少なかったものの、9月に2週続いた3連休で利用を伸ばし、例年並みを維持した。9月の後半にはラグビーワールドカップが開幕し、観戦を目的とした国内ツアーや、周遊フリー切符を活用した外国人観光客の宿泊などにより利用を伸ばした施設もあった。消費税増税に向けホテルシステムの更新や、キャッシュレス消費者還元事業の加盟店登録などの準備を進めるホテルがみられた。</p>
<p>見 通 し</p> 	<p>観光客は秋の行楽シーズンを迎え、紅葉や温泉を目的とした宿泊利用への期待はあるものの、消費税増税による影響が懸念される。また、台風19号の被災により、多くの施設でキャンセルが相次いでいる。交通機関の復旧や被災地というイメージを払しょくするまで影響は続くと思われる。宿泊利用は低調に推移する見通し。ビジネス客の宿泊利用は、例年並みで推移する見込み。宴会部門は台風被害への配慮から自粛の動きが懸念される。ブライダルは秋の人気シーズンだが、挙式形態の多様化の影響から、件数・規模ともに前年を下回るとみられる。</p>